

基礎力学演習 第5回 定数係数線形微分方程式・振り子

2019年10月25日 担当：佐藤 純

問題 1 以下の微分方程式を初期条件 $[x = 0$ のとき $y = 0, y' = 4]$ のもとに解き，グラフの概形を描け．ただし， y は x の関数であるとし， $y' = dy/dx, y'' = d^2y/dx^2$ である．

(1-1) $y'' + 4y = 0$

定数係数の線形微分方程式なので，指数関数型の解 $y = e^{\lambda x}$ を仮定する．これを微分すると $y' = \lambda e^{\lambda x}, y'' = \lambda^2 e^{\lambda x}$ となる．これを微分方程式に代入すると，

$$\lambda^2 e^{\lambda x} + 4e^{\lambda x} = 0,$$

$$e^{\lambda x}(\lambda^2 + 4) = 0,$$

$$\lambda^2 + 4 = 0,$$

$$\lambda = \pm 2i$$

を得る．ここで， $e^{\lambda x} > 0$ であることを使った．

これを $y = e^{\lambda x}$ に代入して，2つの基本解 $y = e^{2ix}, y = e^{-2ix}$ を得る．よって，この微分方程式の一般解は

$$y = Ae^{2ix} + Be^{-2ix} \quad (A, B \text{ は積分定数}) \quad (1)$$

となる．あるいは，指数関数をオイラーの公式を使って三角関数に直すと，

$$\begin{aligned} y &= Ae^{2ix} + Be^{-2ix} \\ &= A(\cos 2x + i \sin 2x) + B(\cos 2x - i \sin 2x) \\ &= (A + B) \cos 2x + i(A - B) \sin 2x \\ &= C \cos 2x + D \sin 2x \quad (C, D \text{ は積分定数}) \end{aligned} \quad (2)$$

となる．ただし， $C = A + B, D = i(A - B)$ とおいた．

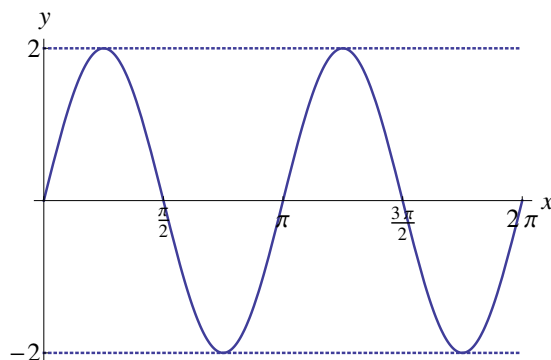
上の (1) 式と (2) 式は等価であり，どちらを使ってもよいが，初期値問題を解く際には (2) 式の方が楽なことが多いので，以下の問題では断りなく (2) 式の形に書き換えることもある．

$x = 0$ のとき $y = C = 0$ なので， $y = D \sin 2x$ となる．

これを微分すると $y' = 2D \cos 2x$ となる．

$x = 0$ のとき $y' = 4 = 2D$ なので， $D = 2$ となる．

したがって， $y = 2 \sin 2x$ を得る．



(1-2) $y'' + 6y' + 13y = 0$

特性方程式 $\lambda^2 + 6\lambda + 13 = 0$ の解は $\lambda = -3 \pm 2i$ なので、一般解は

$$\begin{aligned} y &= Ae^{(-3+2i)x} + Be^{(-3-2i)x} \\ &= Ae^{-3x+2ix} + Be^{-3x-2ix} \\ &= Ae^{-3x}e^{2ix} + Be^{-3x}e^{-2ix} \\ &= e^{-3x}(Ae^{2ix} + Be^{-2ix}) \\ &= e^{-3x}\{A(\cos 2x + i \sin 2x) + B(\cos 2x - i \sin 2x)\} \\ &= e^{-3x}\{(A+B)\cos 2x + i(A-B)\sin 2x\} \\ &= e^{-3x}(C \cos 2x + D \sin 2x) \end{aligned}$$

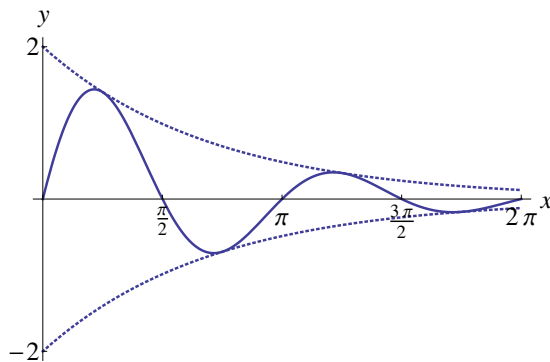
となる。ただし、 $C = A + B$, $D = i(A - B)$ とおいた。

$x = 0$ のとき $y = C = 0$ なので、 $y = De^{-3x} \sin 2x$ となる。
これを微分すると

$$\begin{aligned} y' &= D\{(e^{-3x})' \sin 2x + e^{-3x}(\sin 2x)'\} \\ &= D(-3e^{-3x} \sin 2x + 2e^{-3x} \cos 2x) \end{aligned}$$

となる。 $x = 0$ のとき $y' = 4 = 2D$ なので、 $D = 2$ となる。

したがって、 $y = 2e^{-3x} \sin 2x$ を得る。



$\sin 2x$ は波を表すが、その振幅が $2e^{-3x}$ に従って減衰する。したがってグラフを描くときは、まず $\pm 2e^{-3x}$ のグラフを描き、その中を振動する波を描けばよい。これを減衰振動と呼ぶ。

(1-3) $y'' + 6y' + 5y = 0$

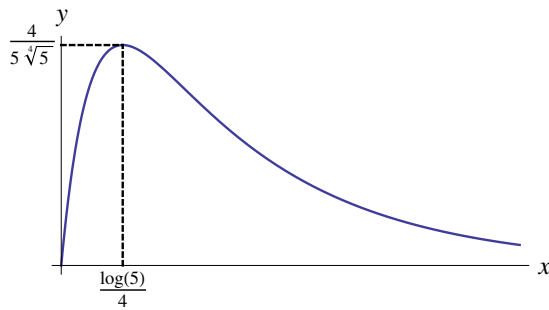
特性方程式 $\lambda^2 + 6\lambda + 5 = 0$ の解は $\lambda = -1, -5$ なので、一般解は

$$y = Ae^{-x} + Be^{-5x}$$

となる。これを微分すると

$$y' = -Ae^{-x} - 5Be^{-5x}$$

となる。初期条件より、 $0 = A + B$, $4 = -A - 5B$ なので、 $y = e^{-x} - e^{-5x}$ を得る。



まず、 $x = 0$ のとき $y = 0$ なので、グラフは原点を通る。
次に、 $x > 0$ のとき $e^{-x} > e^{-5x}$ なので、常に $y > 0$ である。
また、 $x \rightarrow \infty$ で $y \rightarrow 0$ となる。

増減表を書くため y' を計算すると、

$$\begin{aligned} y' &= -e^{-x} + 5e^{-5x} \\ &= e^{-5x}(5 - e^{4x}) \end{aligned}$$

となるが、 $y' = 0$ となる x は

$$e^{4x} = 5 \Leftrightarrow 4x = \log 5 \Leftrightarrow x = \frac{1}{4} \log 5$$

と求まる。また、

$$e^{4x} = 5 \Leftrightarrow e^{-x} = 5^{-\frac{1}{4}} = \frac{1}{\sqrt[4]{5}} \Leftrightarrow e^{-5x} = 5^{-\frac{5}{4}} = 5^{-1} 5^{-\frac{1}{4}} = \frac{1}{5\sqrt[4]{5}}$$

より、そのとき y は

$$\begin{aligned} y' &= e^{-x} - e^{-5x} \\ &= \frac{1}{\sqrt[4]{5}} - \frac{1}{5\sqrt[4]{5}} \\ &= \frac{4}{5\sqrt[4]{5}} \end{aligned}$$

したがって増減表は

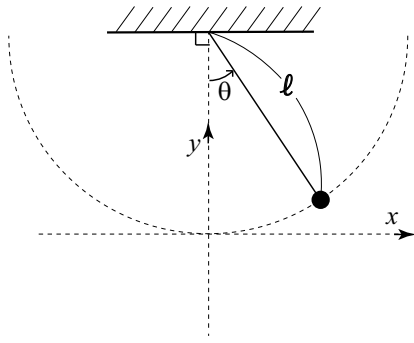
x	0	\sim	$\frac{1}{4} \log 5$	\sim
y'	+	+	0	-
y	0	\nearrow	$\frac{4}{5\sqrt[4]{5}}$	\searrow

となる。

問題 2 糸の先におもりをつけ、他端を天井に固定して吊るす。糸の質量は無視し、おもりは鉛直面内で振動するとする。

糸の固定点を通る上向きの鉛直線を y 軸、おもりの最も低くなる点を原点とし、原点から水平方向に x 軸をとる。(図を参照)。

糸の長さを l 、おもりの質量を m とし、 xy 面内の運動を考える。



- (2-1) 単振り子の糸が y 軸となす角を θ とする。(図を参照).
おもりの位置座標 (x, y) を θ を用いて表せ.

$$x = l \sin \theta, \quad y = l(1 - \cos \theta)$$

- (2-2) 上式を時間微分することにより, \ddot{x}, \ddot{y} を $\dot{\theta}, \ddot{\theta}$ の式で表せ.

$$\begin{aligned} \dot{x} &= \frac{dx}{dt} = l \frac{d \sin \theta}{dt} = l \frac{d \sin \theta}{d\theta} \frac{d\theta}{dt} = \boxed{l \cos \theta \dot{\theta}} \\ \dot{y} &= \frac{dy}{dt} = l \frac{d(-\cos \theta)}{dt} = l \frac{d(-\cos \theta)}{d\theta} \frac{d\theta}{dt} = \boxed{l \sin \theta \dot{\theta}} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \ddot{x} &= \frac{d\dot{x}}{dt} = l \frac{d(\cos \theta \dot{\theta})}{dt} = l \left(\frac{d \cos \theta}{dt} \dot{\theta} + \cos \theta \frac{d\dot{\theta}}{dt} \right) = l \left(\frac{d \cos \theta}{d\theta} \frac{d\theta}{dt} \dot{\theta} + \cos \theta \ddot{\theta} \right) \\ &= \boxed{l \left(-\sin \theta (\dot{\theta})^2 + \cos \theta \ddot{\theta} \right)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \ddot{y} &= \frac{d\dot{y}}{dt} = l \frac{d(\sin \theta \dot{\theta})}{dt} = l \left(\frac{d \sin \theta}{dt} \dot{\theta} + \sin \theta \frac{d\dot{\theta}}{dt} \right) = l \left(\frac{d \sin \theta}{d\theta} \frac{d\theta}{dt} \dot{\theta} + \sin \theta \ddot{\theta} \right) \\ &= \boxed{l \left(\cos \theta (\dot{\theta})^2 + \sin \theta \ddot{\theta} \right)} \end{aligned}$$

- (2-3) 重力加速度を g , 糸の張力を T とし, おもりの運動方程式を立てよ.

重力は $\begin{pmatrix} 0 \\ -mg \end{pmatrix}$, 糸の張力は $\begin{pmatrix} -T \sin \theta \\ T \cos \theta \end{pmatrix}$ より, おもりに働く合力は $\begin{pmatrix} -T \sin \theta \\ T \cos \theta - mg \end{pmatrix}$ となるので, 運動方程式は

$$m \begin{pmatrix} \ddot{x} \\ \ddot{y} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -T \sin \theta \\ T \cos \theta - mg \end{pmatrix}$$

となる.

- (2-4) 上式から糸の張力 T を消去し, θ に対する微分方程式を導け.

運動方程式の x 成分に $\cos \theta$, y 成分に $\sin \theta$ をかけて足し合わせると,

$$m(\ddot{x} \cos \theta + \ddot{y} \sin \theta) = -mg \sin \theta$$

となるが, 左辺に (2-2) の解答を代入して

$$l\ddot{\theta} = -g \sin \theta$$

を得る.

(2-5) 振り子の振り幅が十分小さいとき, 振り子の運動は単振動になることを示し, 振動の周期を求めよ.

$|\theta| \ll 1$ のとき, $\sin \theta \sim \theta$ より, $\ddot{\theta} + \frac{g}{l}\theta = 0$ となる. これは単振動の微分方程式であり, $\omega = \sqrt{\frac{g}{l}}$ とおけば $\theta(t) = A \cos \omega t + B \sin \omega t$ が一般解となる. したがって, 周期 $T = 2\pi/\omega$ は,

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$

となり, おもりの質量や振れ幅によらず, 糸の長さ l だけで決まる (振り子の等時性).